

まちの魅力と笑顔を伝える



「広報つなぎは」今月号で700号を迎えました。町民の皆さまのご協力への感謝を込めて、記念特集をお届けします。これからも広報つなぎをよろしく願います。



←↑つなぎFARMの取り組みを紹介した【特集】恵みをつなぐ。(令和3年12月号)



広報つなぎが今月号で記念すべき700号を迎えました。平成28年1月の第600号発刊以来、町の話題や町民の皆さまの暮らしを追い続けて約8年の月日が経ちました。本誌では町からの情報を分かりやすく伝える紙面づくりをはじめ、皆さまの笑顔や頑張る姿を届けることを心がけています。広報紙は情報発信の役割だけでなく町の取り組みや現状、町の歩みを知るための貴重な資料です。今回はこれまでに掲載したいくつかの記事を振り返りながら広報つなぎを紹介します。これからも本誌は皆さまと共に歩み続けます。



↑令和2年7月豪雨災害の復興に向け活動する人々に密着した【特集】RESTART (令和2年9月号)

広報つなぎが伝えたいこと

広報つなぎでは「まちにふれる魅力や笑顔を届ける広報紙」をテーマに、多くの人を紹介することを心がけています。手に取ってもらいやすいよう、読みやすい文章やレイアウト、写真選びにも注力しています。その中でも特に力を入れているのが「特集」です。地域の魅力や伝統はこのまちにでもあるもの。もちろん津奈木町にもあります。住民の皆さまにとって身近で当たり前のようなことの一つ一つが津奈木町の魅力や伝統の一部なのです。人々の日常

の姿と共に地域の伝統などを伝えることで、町の魅力を皆さんに再確認してもらいたい。紙面に取り上げて応援することで、住民には「誇り」、町外からは「憧れ」を抱いてほしい。そんな思いで幅広い世代に取材し、特集を制作しています。

昨年度からはコロナ禍が収束しつつあり、町内のイベントも復活してきています。そこで紙面を通して住民の皆さまの「笑顔」と「活気」を伝えることを特に意識して広報紙制作に励んでいます。広報つなぎはこれからも皆さまに愛され、親しまれる広報紙を目指していきます。

(広報つなぎ編集担当)

600~700号でおきた町の出来事

平成28年(2016年)
2月 津奈木IC 開通
3月 平国小学校閉校
4月 熊本地震発生
9月 平国コミュニティセンター開設

平成29年(2017年)
7月 山田町政1期目スタート
10月 「ホテル裸島」オープン
「達仏」設置

平成30年(2018年)
4月 物産ギャラリーグリーンゲイト1階がつなぎ百貨堂にリニューアル

平成31年(2019年)
3月 津奈木IC~水俣IC 開通

令和元年(2019年)
5月 新元号「令和」へ
令和2年(2020年)
4月 新型コロナウイルス感染症対策緊急事態宣言発令
7月 令和2年7月豪雨災害

令和3年(2021年)
7月 山田町政2期目スタート
9月 つなぎ美術館20周年柳幸典プロジェクト成果展「石霊の森」公開

令和4年(2022年)
5月 《入魂の宿》公開
11月 つなぎふれあい祭り30周年

令和5年(2023年)
3月 津奈木幼稚園閉園
10月 グリーンゲイト30周年記念イベント開催

令和6年(2024年)
4月 津奈木保育園民営化



完成!



⑥印刷・製本・配布

印刷会社で印刷・製本された広報紙は納品後、各地区の区長や隣保班の人たちによって各家庭に配布されます。



④校正・入稿

編集ソフトで作ったデータを全職員が確認し、情報や文字に誤りがないかチェック。その後印刷会社にデータを渡します。



③編集

お役所言葉を使わず、分かりやすい文章を意識。シンプルなレイアウトで内容が紙面を見ただけで分かるよう心がけています。



②取材・撮影

取材のときはその人の思いを聞き出すこと、写真は「津奈木らしさ」が伝わる写真を意識して撮影しています。



①企画

月のイベント・できごとや各課からの情報提供などをもとにページ数を決め、記事の内容を企画します。

普段皆さまが読んでいる広報紙はどのようにして作られ、届けられているのか。ここでは広報つなぎの完成までを紹介します。

広報つなぎの作り方